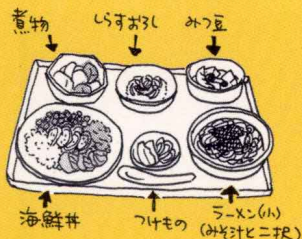




# B級グルメ

田沢竜次

イラスト 桑田乃梨子



この町が  
美味い！





ちくま文庫

B級<sup>きゅう</sup>グルメ この町<sup>まち</sup>が美味<sup>うま</sup>い！

二〇〇七年八月十日 第一刷発行

著者 田沢竜次（たざわ・りゅうじ）

発行者 菊池明郎

発行所 株式会社 筑摩書房

東京都台東区蔵前二―五―三 千一―一―八七五五

振替〇〇―一六〇―八―四一二三

装幀者 安野光雅

印刷所 三松堂印刷株式会社

製本所 株式会社積信堂

乱丁・落丁本の場合は、左記宛に御送付下さい。

送料小社負担でお取り替えいたします。

ご注文・お問い合わせも左記へお願いします。

筑摩書房サービスセンター

埼玉県さいたま市北区櫛引町二―六〇四 千三三―一八五〇七

電話番号 〇四八―六五一―〇〇五三

© RYUJI TAZAWA 2007 Printed in Japan

ISBN978-4-480-42354-2 C0177

ちくま文庫

# 江苏工业学院图书馆

B級グルメ この町が美味しい!

## 藏书章

田沢章次



筑摩書房



目次

はじめに 9

第1章 東京ど真ん中に行く

有楽町 デートコースの裏道に行く 14

新橋 飲み屋街で朝・昼は健康ライフ 21

神田駅前 ガード下でハシゴ三昧 27

秋葉原 メイドカフェ vs. 肉の万世 33

官庁街&国会 農林水産省の地下通路がベスト1 41

品川 ラーメン vs. 井対決 47

東京・上野・品川構内 三大「えきなか」実力対決 53

## 第2章 文化の都で食探検

上野・アメ横 食のるつぽで食べて買い物

62

湯島 風格の名所と立ち食いそば

69

本郷 東大構内お座敷で生ビール

76

神保町 カレー行脚はどこまでも

83

## 第3章 下町から宿場町ロード

人形町 都心の甘々ロード

94

深川界限 飲み始めは早めに、が深川流 101

柴又（七福神） 寅さんの味は永遠なり 107

亀戸（七福神） 四皿、五皿と餃子をお代わり 114

北千住 ああ宿場町慕情 121

コラム3 その後の餃子ミュージアム 127

## 第4章 西部圏の目玉

渋谷 本当はオヤジの街、わが渋谷 130

三軒茶屋と世田谷線 レトロなロードでオヤジ泣く 137

新宿 年一回の一大イベント駅弁大会 144

四谷 東京ど真ん中で立ち飲み 150

コラム4 東京で富士宮焼きそば 157

## 第5章 商店街もイロイロ

大山（東武東上線） 無限に続け！ ハッピーなアーケード

160

巢鴨 露天風呂と地藏通り商店街

167

早稲田く高田馬場 ラーメンロード食べ比べ対決

174

中野 食の魔窟・ブロードウェイ探検

181

コラム5 インスタントラーメン専門店

188

## 第6章 日帰り観光名所

東京タワー 展望台のソフトから限定品みやげまで

192

竹芝 東京湾納涼船と「東京愛ランド」

198

台場 昭和レトロと宇宙食

204



船橋ららぽーと テーマパーク「パン屋ストリート」に通う 210

川越 さつま芋は、ラーメンからコーヒーにまで 215

青梅 街ごと昭和にタイムスリップ 222

コラム6 四川火鍋で一人鍋 229

## 第7章 グルメ旅行で遠くへ

名古屋 名物食べまくり行脚 234

那覇 沖縄おやつ紀行 245

\*本書は、二〇〇七年三月までの取材をもとに書かれています。その後閉店、移店、電話番号変更等の可能性もありますのでご了承ください。

\*本書掲載の地図には、本書に載っているすべての店が記されているわけではありません。参考としてご使用ください。

イラスト 桑田乃梨子

マップ 田沢竜次

## はじめに

B級グルメの醍醐味は町歩きにある。

例えば、ラーメンの美味しい〇〇軒に行こうと、ふだんは行ったこともない駅で降りて店を目指すとする。せっかくだから、その町の商店街から路地裏まで、歩いてみると意外な出会いがあったりする。

昔ながらの豆腐屋や佃煮屋、揚げたてのメンチカツが美味そうな肉屋さんとか、思わずいろいろと買い込んで、ついでにパン屋さんで菓子パンまで。さらにシブイ居酒屋を発見したので、今度友達を誘って入ってみようとか。こうすると、世界がどんどん広がりそうだ。

あるいは、特定の店を目的としなくてもいい。いつもは、通勤・通学途中に通過する駅にフラリと途中下車してみる。へえ、ここにこんな商店街があったんだなんて驚き、それからいつも行く盛り場でも、一度も足を踏み入れたことがなかったガード下

なんてところもあって、町は奥が深いのだ。

本書は、そんな町歩きを、食べ歩き、飲み歩きを中心に、買い物（おみやげ）も入れて構成した。特に東京が中心である。

東京という町の面白いところは、ＪＲであれ、地下鉄であれ、私鉄であれ、ともかくほとんどの駅に、独自の商店街や大小含めた盛り場があることだ。

東京生まれや、東京暮らしの長い人でも、そんな東京の各町のほんの一部しか行つたことがないだろう。まだまだ東京は、再発見の楽しみがたくさんある。

もう一つは、東京は、町から町へ渡り歩くと意外にいろいろな世界を体験できるってことだ。例えば、本書にもある、上野を起点にしてアメ横から御徒町を経て、湯島に出て、本郷から東大まで行くコース、あるいは、本郷から御茶ノ水に出て、ここから秋葉原に出るか、神保町に出るかとか。

あるいは、新橋から有楽町、東京、神田へとガード沿い・ガード下だけをずっと見て歩くってなこともできるし、無味乾燥な官庁街や国会議事堂前を、食堂渡り歩きで行くとまた新鮮な印象だったり、各地の七福神めぐりとともにグルメめぐりもやってみてもいい。本書がそんなバラエティに富んだ町歩きの手引になれば幸いである。

さて、目次を見た読者の皆さんは、あれれっと感じたかも知れない。そうです。こ

こには今をときめく東京トレンドイス・ポットがほとんどないのだ。

六本木も銀座も表参道も代官山も神楽坂も丸ビルも吉祥寺も谷中も築地市場も浅草もでてこない。新宿の項目はあっても、なんと京王デパートの駅弁大会だったり、池袋はコラムで餃子スタジアムとカレーラーメンの店に触れている程度、渋谷は、オヤジの渋谷だ。その一方で、新橋は飲み屋は一軒も登場せず、朝と昼の健康新橋、せっかく有楽町があるのに銀座は無視されている（浅草と築地市場については拙著『B級グルメ大当りガイド』で取り上げた）。

それに何よりも、登場する町や盛り場で有名な老舗や超人気の行列店がいくつも無視されているではないか。それでも東京のガイドといえるのか？

そうです。東京ガイドとも、また下町散策とも違います。要するに、田沢竜次がよく行く町、好きなスポットを優先したらこうなりました。その独断ふりと視野の狭さはいかがなものかとの声もあるうが、読者の皆さんそれぞれの町歩きの参考になればよし、ということでご理解ください。ちなみに東京の東側が多く、西側が少ないのは、好みもあるけど、自宅が千葉県という事情も少しある。

日帰り観光名所や、遠くの名古屋や那覇が登場するのも、あくまでB級グルメ的町歩きの探求心で選んだものだからだ。

実は、気に入ってる町や盛り場もまだまだあって、例えば東京では、赤羽、十条、東十条、両国、小岩、西荻窪、日暮里、大井町、蒲田、笹塚、飯田橋、白山、千石、戸越銀座、江戸川橋、大久保、新大久保などなど、あとからあとから出てくるが、それはいずれまたのお楽しみに。

本書は、白泉社の『ヤングアニマル』（月二回刊）という、青年向けマンガ誌に連載中（一九九七年から）のコラム&ルポ「B級グルメ冒険記」をもとに、再構成したもので、二〇〇五年三月にちくま文庫で刊行した『B級グルメ大当りガイド』に続くものです。

ただし、前著は食のジャンル別中心、本書はタウン中心で、観点が違うので、併せて読んでもらえれば嬉しい。

雑誌連載では一〇年を迎えて、毎回独自の視点でイラストを描いていただいている桑田乃梨子さん、連載時の歴代の担当編集者、そして本書、ちくま文庫の編集者の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

なお、本書に登場する店は、二〇〇七年三、四月にかけて再取材やチェックを行ったが、閉店、移転、リニューアル、メニュー変更、値上げ、電話番号移転などは、常にあり得ます。ご容赦を。

第一章

東京ど真ん中に行く

## 「有楽町」

## デートコースの裏道に行く

有楽町といえば、オヤジはすぐに「有楽町で逢いましょう」だし、数寄屋橋とくれば「君の名は」だ。古いけど、ここは昔も今もデートコースの重要ポイントってところが、新橋や神田とは違うところだな。何といっても、銀座コースに直結するし、歩いて行ける範囲で映画館も多い。しかしだ、有楽町の真の魅力は、意外や新橋や神田、上野に通じるような飲食エリアにある。

例えばまず、東京寄り出口からそのまま東京方面のガード下だ。新橋系オヤジたちが喜ぶ昭和レトロな店が並ぶ。特に、丸三横丁のロケーションはシブイ。「谷ラーメン」なんて昔ながらの中華店もあるが、ここ有楽町界限は、意外に普通の中華店が多い。

駅前銀座口の再開発されなかった一角にある「中国亭」とか、線路沿いの日比谷シ



ヤンテに曲がる所にある「**謝**」とか、どこにでもあるような普通のラーメンやチャーハンが味わえる。カリスマ系の行列店じゃなくいい、ごく普通の中華店に行きたって衝動は、時々あるよな。まあこの辺は、デートというよりはオヤジ一人めし向きだけだね。

先の一角は、昔の駅前感覚を残した貴重な空間で、ベーカリーの「**HOKUO**」なんて、オリジナリティあふれるパンがたくさんあって楽しい。牛スジカレーパンとかよもぎアン大福パンとかね。映画の開映時間が迫っていて、あわてて館内で食べるパンをテイクアウトなんて時には重宝する（二階に喫茶室も）。またカレーの「**いん**でい」も、オールド系のカレースタンドとしておすすめなり。

そういえば再開発エリアには、有楽町名物とまでいわれた立ち食いそば&焼きそば&天井の「**後楽そば**」ってのがあったっけか。あれも再開発で消えてしまったのかの。と思つたら、なあんだガード沿いに移転していた。久々に焼きそば&いなり寿司のセットを注文。緑日風コテコテのソース焼きそばに、立ち食いそばの汁そのままのスープを飲んだら喉が渴いてくる。早くデートコースに進もう。わしのイチ押しは、有楽町のシンボルともいえる風格でそびえる**東京交通会館**。新橋駅前ビルと同じ一九六五年オープンなので、ビル内は六〇年代風の店が並ぶ。